

権力と建築—1930-1960年代のソ連建築を例に

専門分野

美術史 建築史
地域研究(ロシア・ソ連)

キーワード

文化政策 技術交流 表象文化 都市計画と建築
政治と建築競技設計 ロシア・ソ連美術/建築

研究目的・概要

研究対象は1930-60年代のソ連における大型建築競技設計及び建築プロジェクトと建築界の動向、建築にまつわる表象文化です。ソ連の芸術全般は政治（特に権力者との折衝）やイデオロギーとの繋がりにより、「表現」が制限されたと言われています。果たしてそうでしょうか。建築プロジェクト、住宅政策、都市計画、建築家や建設関係者の対外交流を軸に、国外でのソ連建築の評価とソ連社会での建築そのものの扱われ方に着目して、国家を表象する建築スタイルまたは潮流が生成される過程を究明することが研究の目的です。

「建築」というと建築物の構造や材料、建て方、地盤、環境など工学的な側面で語られる傾向にあります。建築がモノとして実現するまでには、建築家によって様々な要因を加味して設計され、図面に描かれ、設計図という形を経由します。その設計図は建築家のアイデア、つまり彼の何かしらの芸術的な表現として我々は見ることができます。一方で設計図を単に建築物を実現するための指示書として捉えた場合、そこにはその建築物を実現するための建築物の構造、それを形作るための建築材料、それらの材質、建設予定地の環境と地盤への対応などが記されます。建築物の全体像として描かれる場合と建築物を実現するための具体的な指示が書き加えられるもので、もちろん扱い方や名称は厳密には異なります。しかし、この二つには建築物を実現するための「計画」という側面を表しています。計画はあくまで建築物を実現するための準備にすぎません。ですが、その段階において経済的要因や政治情勢、社会状況、技術的要因などが絡んで、当初考えられていた最終的な形態としての建築物は往々にして変容を被ります。結果として実際に建設される場合と実現せずに頓挫する場合がありますが、建築そのものが完成された芸術作品としてだけでなく、そうした計画に着目することによって一つの文化的側面を持つものであると我々は認識することができるのです。この点を再確認し、建築という分野を通じて当時のソ連社会や文化を照射することがこの研究の目標となります。

建築が主な対象となりますが、建築をめぐる言説や映画、テレビ番組なども対象となります。当時の文化政策、都市計画、政治方針からの史実的資料に基づいて多面的に解明することが研究の特徴となっています。



フルシチョフ政権期に建設された集合住宅



国際学部 国際文化学科
鈴木 佑也 准教授

担当科目：ロシア語、現代ロシア論、ロシア文化論

HP https://www.nuis.ac.jp/teacher_suzuki/
Researchmap <https://researchmap.jp/read0151253>